

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましよう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましよう。

（ ） 月 日 曜日

生き物たちが伝えてくれたこと

六年 岩下 夏希

「 やったあ。」

ジリジリ太陽が照りつける中、私は「ヤッ」と

オニヤンマを一ぴきつかまえた。

「今年の夏休みの自由研究は昆虫採集をす

る」ということが決まったのはほんの三分ぐ

らい前のことだ。それなのに私はもう、虫た

ちを追いかけて回している。ようやくつかまえ

たオニヤンマの横で、標本の作り方を調べて

西之表市立榕城小学校

いると、まが最初に針で体をさすか、冷凍す

るかを決めなければならぬと分かった。学

ぶために命をもらわなければならぬ。それ

は、昆虫採集をすると決めたときから分かっ

ていたことなのにいざそのときになるとオニ

ヤンマがかわいそうになっ、どちらともす

ぐにはできそうになか、た。そこで私は少し

の間、オニヤンマを飼ってみることにした。

次の日、私は理科の教科書をパラパラと見

ていた。そこで目が止まったのは、この前学

No. 1

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましよう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましよう。

(不許複製)



鹿児島県小学校教育研究会国語部会選定

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましよう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましよう。

（ ）月 日 曜日

校で習った「食物連鎖」という言葉だ。植物
を草食動物が食べ、草食動物を肉食動物が食
べる。この言葉を習ったとき、テレビでライ
オンがシマウマを追いかけている映像を思い
出して、ライオンだっ。て生きるために必死だ
。ただなと思っ。生きるために必死か。
なにげなくつぶやいた自分の一言が何かを教
えてくれているように感じた。それは何かと
ても大切なことのような気がして、私はもう
一度あのテレビの映像を思い出した。シマウ

西之表市立榕城小学校

マが倒れ、ライオンが食べようとしたところ
まで思い出したとき、その何かがあった。
それは「動物たちは自分が生きるために他の
生き物の命を奪うことはあっても無駄に命を
奪わない」ということだ。狩ったものはきち
んと食べ、命を奪ってそのままのことはめっ
たにない。でもその反面、人間はどうだろう。
毎年、約十平方キロメートルもの森林破壊
を行って動物たちのすみかを奪い、害虫、害
獣と言って駆除したり、必要以上の命を奪っ

No. 2

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましよう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましよう。

(不許複製)



鹿児島県小学校教育研究会国語部会選定

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましよう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましよう。

（ ）月 日 曜日

て多くの食品ロスを生み出している。今まで
シマウマやウサギなど、弱い動物を追いか
まわして命を奪うライオンやチーターは、
どい動物だなと思っ ていた。でもこうして考
えてみると、ライオンやチーターより、多
くの命を自分達の都合の良い理由で、奪っ
まう人間の方が、よほどひどいなと思っ た。
もちろん、世界には動物や植物を守ろうとし
ている人もたくさんいる。私もその一人にな
れるようにライオンやチーターから学んだ命
を大切にす る気持を忘れないようにしたい。
今の私に出来ることは何だろうか。顔を上げ
てまわりを見渡したとき横にいたオニヤン
マと目があ った。なんだか昨日より元気がな
い。私はオニヤンマを逃がすことにした。そ
れは、たとえ自由研究のためだとしても限り
ある命を奪いたくなくな ったから。
「ほら。もう自由だよ。」
空高く飛んでいく後ろ姿にありがとうと言
われた気がした。

西之表市立榕城小学校

No. 3

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましよう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましよう。

(不許複製)

